

# 平成27年度「全国学力・学習状況調査」における 小倉中央 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。  
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

## 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数, 理科)

| 主として「知識」に関する問題(A)  | 主として「活用」に関する問題(B)  |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・ 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li><li>・ 実生活において不可欠であり、常に活用できるように</li></ul> <small>たへてはるべしはけいしは知識・技能</small> | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力</li><li>・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・</li></ul> <small>改善する</small> |

- (2) 児童質問紙調査

| 児童質問紙調査                       |
|-------------------------------|
| ○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 |

# 小倉中央 小学校「平成27年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

## 1. 教科に関する調査結果の概要

### ① 学力調査(国語A・B, 算数A・B, 理科)結果

|                       |    | 国語A  | 国語B  | 算数A  | 算数B  | 理科   |
|-----------------------|----|------|------|------|------|------|
| 平成25年度                | 本市 | 60.3 | 46.3 | 74.6 | 56.5 |      |
|                       | 全国 | 62.7 | 49.4 | 77.2 | 58.4 |      |
| 平成26年度<br>(理科：平成24年度) | 本市 | 69.1 | 52.6 | 76.2 | 55.4 | 59.7 |
|                       | 全国 | 72.9 | 55.5 | 78.1 | 58.2 | 60.9 |
| 平成27年度                | 本市 | 67.1 | 62.1 | 73.3 | 43.7 | 57.3 |
|                       | 全国 | 70   | 65.4 | 75.2 | 45   | 60.8 |

### ② 学力調査結果の分析

|     |             |   |                       |
|-----|-------------|---|-----------------------|
| 国語A | 全体的な傾向や特徴など | <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国平均正答率を下回っており、全体的に無解答率が高い。特に漢字を書く力の定着が不十分で、無解答率も高い傾向がある。</li> <li>・選択式の問題と比較すると、短答式の問題を苦手としている。</li> </ul> | 全国平均正答率との比較<br>下回っている |
|     | よくできた問題     | 説明文の文章の書き方の工夫として、適切なものを選択する問題は正答率が高かった。   |                       |
|     | 努力が必要な問題    | 新聞のコラムを読んで、表現の工夫を捉える問題は、正答率が低かった。   |                       |

|     |             |   |                       |
|-----|-------------|---|-----------------------|
| 国語B | 全体的な傾向や特徴など | <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国平均正答率を下回っており、記述式の問題の無回答率が高い傾向がある。</li> <li>・記述式の問題を苦手とする傾向があり、自分の考えを文章化する力をつける必要がある。</li> </ul> | 全国平均正答率との比較<br>下回っている |
|     | よくできた問題     | 目的や意図に応じ、新聞の割り付けをする問題は、無解答率が低かった。   |                       |
|     | 努力が必要な問題    | 声に出して読むときの工夫とその理由を記述する問題は、無解答率が高かった。  |                       |

|     |             |  |                       |
|-----|-------------|--|-----------------------|
| 算数A | 全体的な傾向や特徴など | <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国平均正答率を下回っており、特に図形領域の問題の正答率が低かった。</li> <li>・数と計算領域の正答率は向上しており、5年3学期の朝自習で、集中的に計算問題の復習を行った取組が効果的だった。</li> </ul> | 全国平均正答率との比較<br>下回っている |
|     | よくできた問題     | 小数や分数の減法の計算をする問題は、正答率が高かった。  |                       |
|     | 努力が必要な問題    | 式で表現された数量関係を図と関連付ける問題は、無解答率が高かった。  |                       |

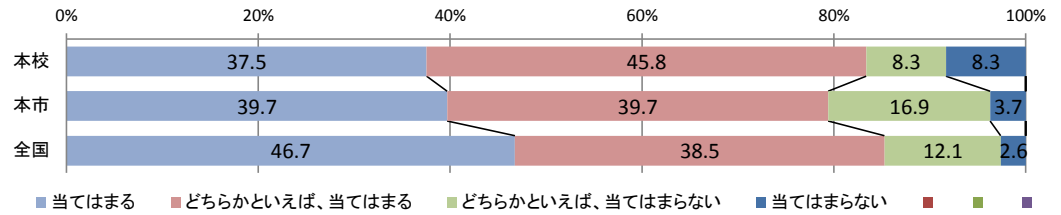
|     |             |   |                       |
|-----|-------------|---|-----------------------|
| 算数B | 全体的な傾向や特徴など | <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国平均正答率を下回っており、記述式の問題の無解答率が高い傾向がある。</li> <li>・応用問題に苦手意識があり、問題をよく読み、粘り強く取り組む力をつける必要がある。</li> </ul> | 全国平均正答率との比較<br>下回っている |
|     | よくできた問題     | 単位量あたりの大きさを用いて、目的に応じた買物の仕方を選択する問題の無解答率が低かった。  |                       |
|     | 努力が必要な問題    | 長方形の面積を二等分する考えを基に、2つの図形の面積が等しい理由を記述する問題の無解答率が高かった。  |                       |

|    |             |  |                       |
|----|-------------|--|-----------------------|
| 理科 | 全体的な傾向や特徴など | <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国平均正答率を下回っており、「エネルギー」「地球」区分の正答率が低かった。</li> <li>・短答式や記述式の問題は正答率が低い傾向にあり、実験や観察の過程を文章で表現する力をつける必要がある。</li> </ul> | 全国平均正答率との比較<br>下回っている |
|    | よくできた問題     | メダカの雌雄を見分ける方法を選択する問題は、正答率が高く、無解答率が低かった。  |                       |
|    | 努力が必要な問題    | 水が水蒸気になる現象の名称を書く問題は、正答率が低かった。  |                       |

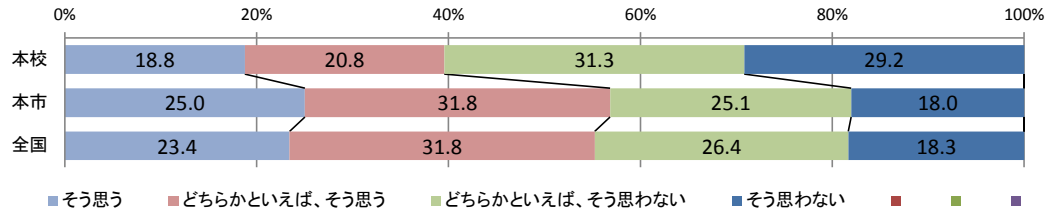
### ③ 学校での学習状況に関する調査結果

|      |
|------|
| 質問番号 |
| 質問事項 |

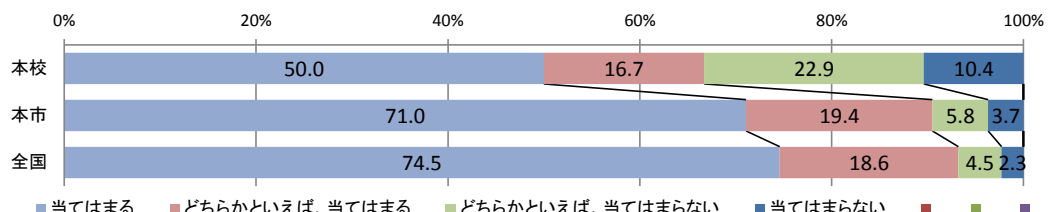
39  
授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思いますか。



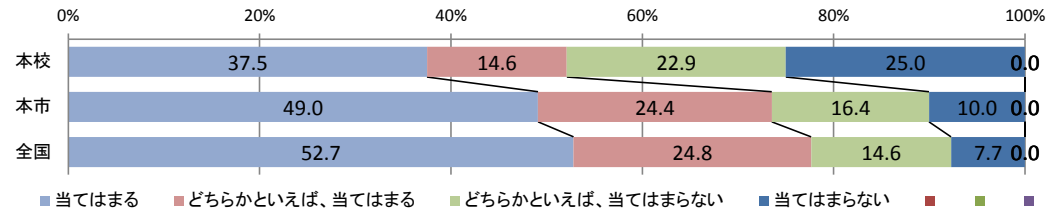
45  
学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか。



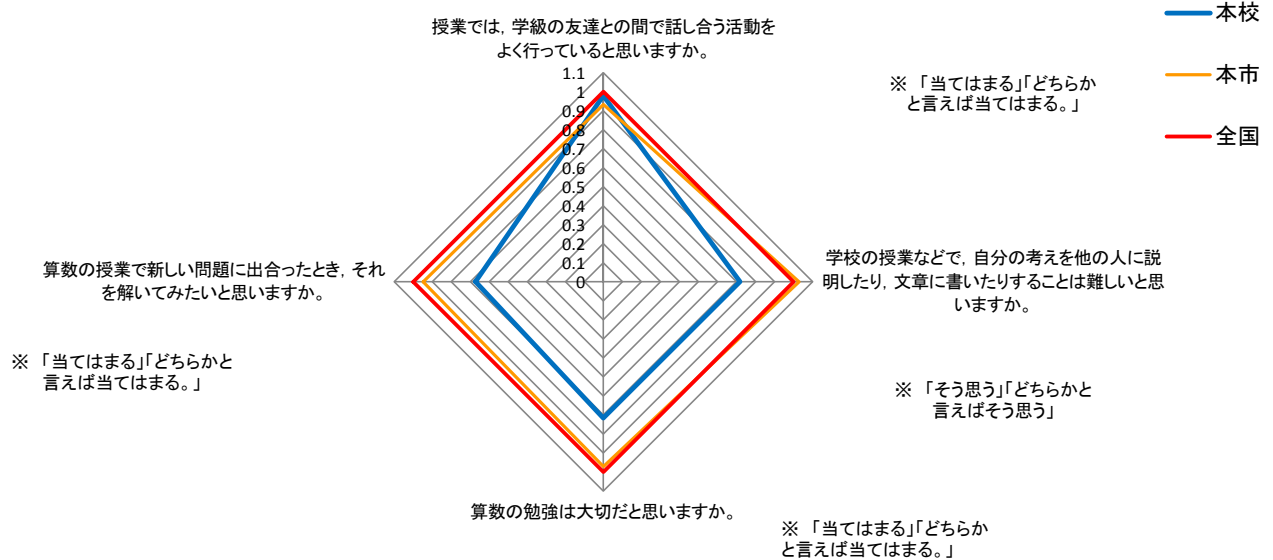
59  
算数の勉強は大切だと思いますか。



61  
算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか。



### ④ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



### ⑤ 学校における学習状況に関する調査結果の分析

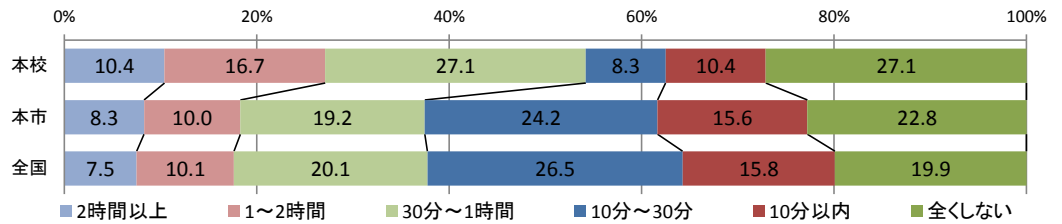
- ・授業での話し合い活動の機会は、ほぼ全国平均レベルだが、自分の考えを説明したり、文章化することを苦手としている児童の割合は高い。話し合い活動の中で根拠を示して説明する場面を位置づけていく必要がある。また、記述式の問題を苦手とする傾向があるので、自分の考えを根拠を示して書く活動の機会を増やしていく必要がある。
- ・算数に対する関心や意欲が低い傾向があり、単元の導入の工夫や、生活と関連付けた応用問題の工夫を図っていく必要がある。

## 2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

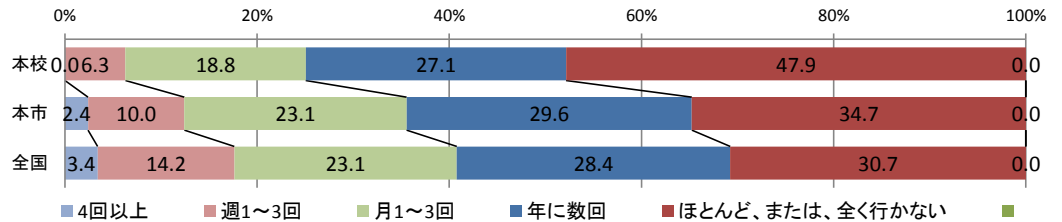
### ① 家庭学習習慣に関する調査結果

|      |
|------|
| 質問番号 |
| 質問事項 |

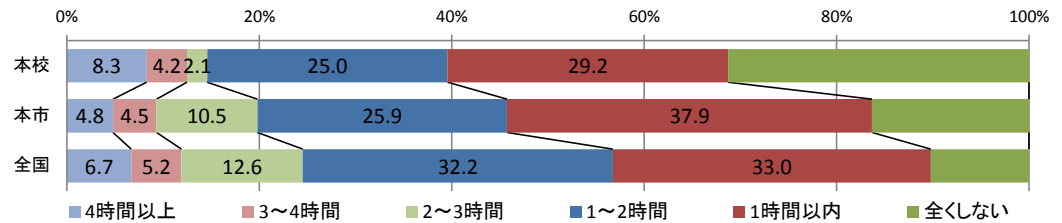
|  |
|--|
| 16   |
| 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか。(教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます。) |



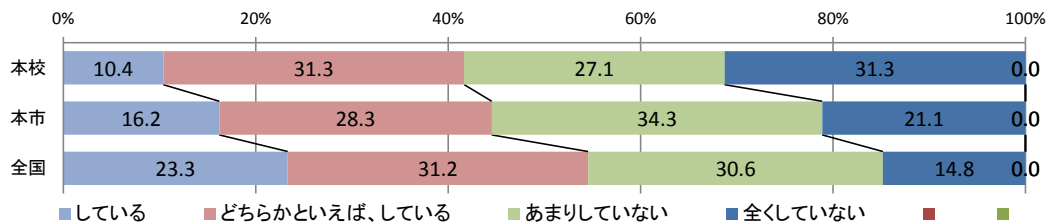
|   |
|---|
| 17  |
| 屋休みや放課後、学校が休みの日に、本(教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます。)を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか。 |



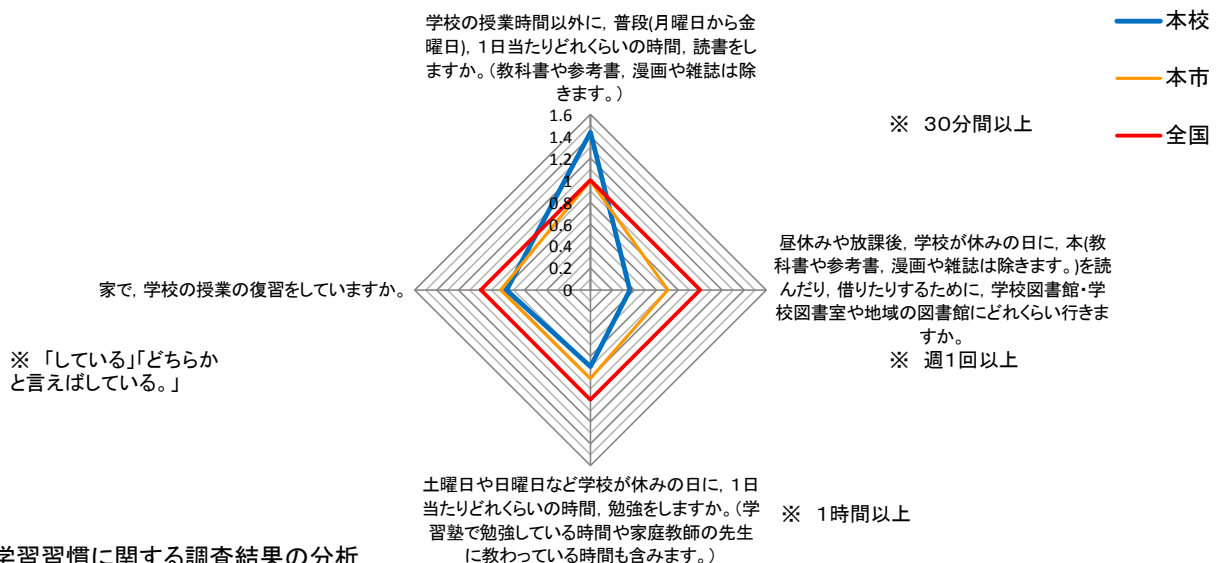
|  |
|--|
| 14   |
| 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含まれます。) |



|                     |
|---------------------|
| 23                  |
| 家で、学校の授業の復習をしていますか。 |



### ② 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



### ③ 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

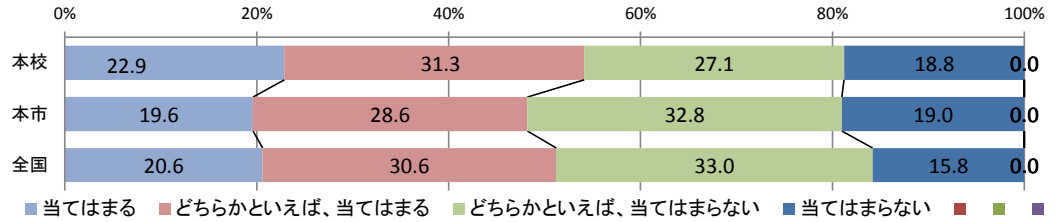
・毎週火曜日の読書タイムや、課題終了後の空き時間などの短い時間を利用した読書の習慣は定着しており、全国平均をかなり上回っている。しかし、屋休みや放課後、休日などにじっくりと読書に取り組むことが少ないようである。

・平日の家庭学習の時間は全国平均とさほど変わらないが、学校の授業の復習をする児童の割合が低い。また、学校が休みの日の家庭学習の時間が短い。以上の結果から、家庭学習の時間の目安や取り組む内容について全校的に知らせ、保護者の協力を得ていく必要がある。

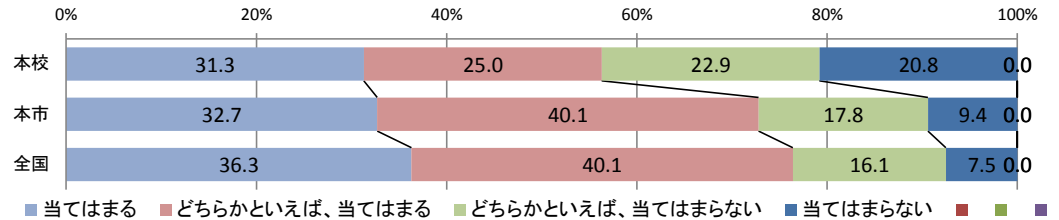
④ 生活習慣等に関する調査結果

|      |
|------|
| 質問番号 |
| 質問事項 |

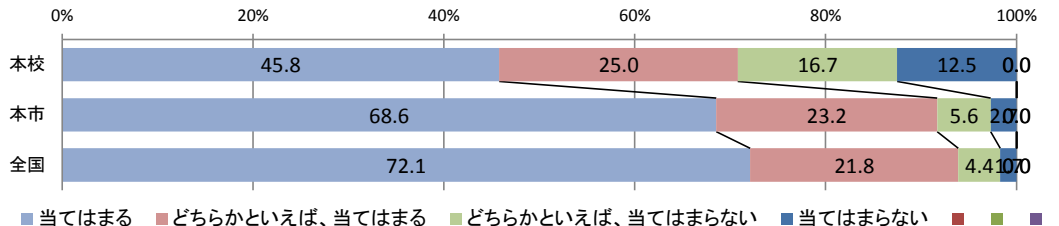
|                             |
|-----------------------------|
| 7                           |
| 友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか。 |



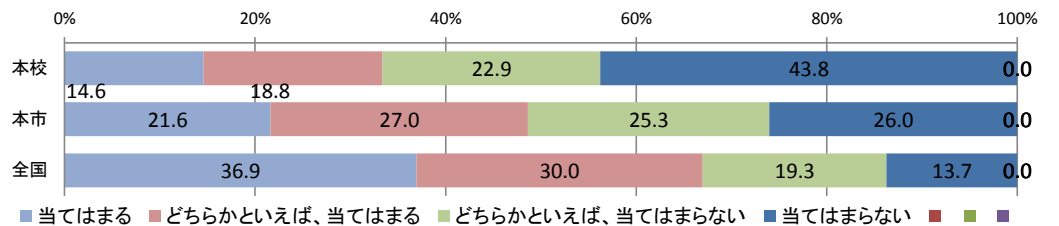
|                      |
|----------------------|
| 6                    |
| 自分には、よいところがあると思いますか。 |



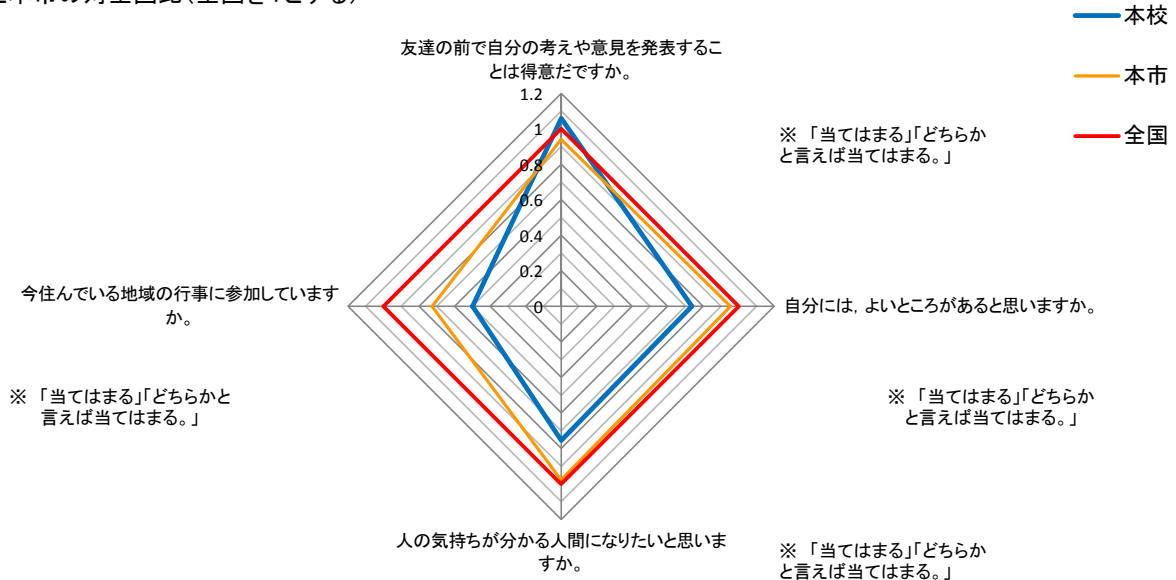
|                         |
|-------------------------|
| 33                      |
| 人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか。 |



|                       |
|-----------------------|
| 27                    |
| 今住んでいる地域の行事に参加していますか。 |



⑤ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑥ 生活習慣等に関する調査結果の分析

・授業で話し合い活動の機会をもつようにしているため、自分の考えを発表することは得意な傾向がある。  
 ・セルフイメージが低い傾向があり、それが「人の気持ちがわかる人間になりたい」児童の割合の低さにつながっていると考えられる。  
 ・校区外通学児童が多い事情もあり、地域行事への参加が少ない傾向がある。

### 3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組(全校・学年・学級・教科毎の取

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

○算数科を中心に少人数指導の充実を図り、少人数指導教員や担任外教員を中心に、低・中学年では基礎的な計算の仕方を確実に身につけさせることに重点を置き、高学年では、図形領域の指導の充実を図る。児童の理解を深めるために、デジタル教科書を積極的に活用する。

○単元や児童の実態に応じて、チームティーチングだけでなく、学級二分割や学年三分割、習熟度別や取り出し等の様々な授業形態で指導の効果を高める。また、担任と少人数担当教員の情報交換を密に行い、学習内容の定着を確認し、定着度合いに応じて指導方法や練習問題の修正を加えながら指導する。

○朝自習プリント(北九州市算数研究会作成)やアシストシートを朝自習や練習問題、家庭学習として活用し、基礎基本の徹底を図る。また、アシストシートや過去問題を冊子にして、冬休み・春休みの「宿題」とする。

○5年生の3学期に、朝自習プリント(北九州市算数研究会作成)に繰り返し取り組む。3回は繰り返し、少人数担当や7年生で採点や直しをし、5年生の既習事項の徹底的な習熟を図る。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

○自主学习ノートの活用や家庭学習時間の設定、家庭学習の取り組み方について、12月の学年・学校通信や個人懇談会等を通じて全校一斉に保護者に啓発し、家庭学習への理解と協力を得るようにする。

○「家庭学習チャレンジハンドブック」の現存状況を把握し、保管状況によっては、内容をダイジェストした「小倉中央・家庭学習の手引き(仮題)」を作成し、児童・保護者に家庭学習の時間や方法を知らせる。

○朝食を必ずとる児童の割合が下がってきているので、朝食をとることの大切さについて、学校通信や保健だよりで啓発していく。また、養護教諭と栄養教諭による健康・食育授業を実施し、朝食の重要性について児童の理解を深める。

○中学校と連携して様々な教科で出前授業を実施(今年度は社会・体育・図画工作・英語を予定したり、小中連携講演会や入学説明会で中学校へ出向く機会をもったりすることを通して、中学入学後の学習や生活への見通しをもたせ、「中1ギャップ」の解消を図る。